

住民主体のまちづくり

No.46 2017. 10

編集発行：車尾まちづくり推進会議 事務局

■ 秋の全国交通安全運動（9/21～9/30）

全国交通安全運動は、広く国民に交通安全思想の普及・浸透を図り、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を習慣付けるとともに、国民自身による道路交通環境の改善に向けた取組を推進することにより、交通事故防止の徹底を図ることを目的としています。

鳥取県警察本部によると、今年の交通事故件数（9月20日現在）は680件（前年同時期682件）。一方、死者は18人（同16人）で、昨年1年間の17人をすでに上回っています。

こうした現状から鳥取県交通安全協会は、秋口の日没時間が急激に早まるとともに、重大事故につながるおそれのある交通事故が多発する傾向にあるため、夕暮れ時から夜間にかけての反射材の活用や前照灯の早期点灯を推進します。

また、本運動期間中の9月30日は、「交通事故死ゼロを目指す日」です。みなさん一人ひとりが交通安全について考え、行動し、悲惨な交通死亡事故を無くしていきましょう。

今年もスーパーマルイ車尾店入口付近で9月24日（日）午後2時半から車尾支部役員6名が、来客に交通安全運動を呼び掛けた。



■ 特殊詐欺被害を防ぐ

地域モデル検証事業（その7）

特殊詐欺防止寸劇の催しが行われていることをご存じですか。

特殊詐欺防止寸劇の催しについて、全体では「知っている」が51.3%、「知らない」が48.7%で、半々の割合となった。

性別では、「知っている」は男性5割半ば、女性

5割弱と、男性の方がやや高い。

年代別

では、

「知っている」は50歳未満の3割強から

70代の6割弱まで、年代が上がるに伴って増加しているが、80歳以上は3割強にとどまった。

車尾地区でこれまでに行った特殊詐欺防止の取組みで、自己の認識強化に効果があったと思うものについて

全体では「特殊詐欺防止のぼり旗を目にしたこと」が53.4%で最多、続いて「特殊詐欺防止のチラシを目にしたこと」が51.0%となっています。5割を超えたのはこの2項目で、以下、「日本海新聞（7月と12月）や中海テレビ（8月と10月）で寸劇やチラシ配布の取組みが紹介されたこと」が25.8%となり、これら以外は2割以下です。なお、「特にない」は2割弱となっています。

性別では、男女ともに「特殊詐欺防止のぼり旗を目にしたこと」が最多、次いで「特殊詐欺防止のチラシを目にしたこと」となって、それぞれ5割を超えています。

年代別では、50歳未満は「特殊詐欺防止のチラシを目にしたこと」と「特にない」が3割半ばで同率最多、50代および70代は「特殊詐欺防止のチラシを目にしたこと」、60代および80歳以上は「特殊詐欺防止のぼり旗を目にしたこと」がそれぞれ最多となっています。

その他の取り組みとしては、「テレビ」「ニュース」「警察からの回覧」「知人が詐欺に遭いそうになったこと」等の回答が挙げられています。

自分たちのまちは自分たちで（ つくる つなぐ つづける ）